

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15010010

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	[全体計画内容] ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防団活性化事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防団員数		#N/A	
事業目標	110名	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働	無	関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服整備 ・女性団員新基準被服整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服購入 ・女性団員新基準被服購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服購入 	
	事業費(千円)	24,100	5,000	5,200	4,400	4,800	4,700
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	24,100	5,000	5,200	4,400	4,800	4,700	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,857	4,857	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	4,857	4,857					
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) ・団員教育訓練・福利厚生 ・新入団員被服購入 ・女性団員新基準被服購入	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	103名	104名	105名	107名	110名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	97%	0%	0%	0%	0%
	全体達成率	20%	20%	20%	20%	20%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名 消防団活性化事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
	評価者 作成者 職氏名	庶務係長	安本 明志美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	団員(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防団員の確保、訓練等による組織の活性化	
【抱える課題やニーズは】	若年層の新規入団を望んでいるが、地元での就職が減少しているため、入団者対象者が少なく、消防団の魅力をアピールし、入団を促進することが課題である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防団活動が活発になる。	① 消防団員数	目標年度	平成25年度
			目標値	103人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	・消防団員数の確保(男性団員100名・女性団員10名) ・消防団員の技量向上	② 訓練回数	実績値	106人
			達成度	102.9%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	呼びかけ	団幹部から協力事業所等への呼びかけ		
	被服支給	・新入団員に被服を支給(災害現場活動をするための特殊被服) ・既入団の女性消防団員に新基準制服を支給(全女性消防団員の制服が新基準に統一された)		
	訓練費用	災害を想定した訓練時に出勤費を支給		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、各種訓練・研修を通じた団員の技術向上を目指す上においても必要とされる。また、団員の高齢化が進むなか、若年層の新規入団も必要とされる。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	訓練等の出勤率については、ほぼ達成され、団員数については目標値の103名を上回る106名に達成した。高齢団員5名の退団に伴い、若年者7名の入団、またそのうち女性団員についても目標は達成されたので、全体の目標は、達成されたと考える。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	研修日数を削減し、訓練回数を増やしたことにより、団員の技術と精神面が向上し、その結果、災害現場での活動がスムーズとなり、活動時間の短縮につながったものとする。また、団員確保に向けて町内企業に団員入団促進を呼び掛ける。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

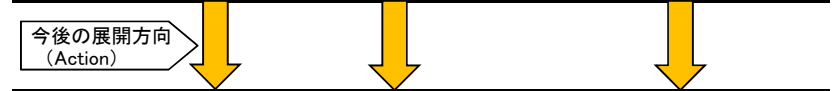
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業は全町民を対象とした事業により、公平と考える。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
最終定員数110名を目標にしているなか、25年度は目標値の103名を上回る106名の団員を確保したので、目標が達成されたと考える。この結果、出勤率が向上した。		



継続/現状維持		
町民の防災意識の高揚や、町としての防災体制の重要性を考えると、今後も継続していく必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15010020

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	[全体計画内容] ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防職員教育訓練事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防職員の資格取得者数		#N/A	
事業目標	18名	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 電波法・船舶職員及び小型船舶操縦者法・労働安全衛生法	
住民協働	無	関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	・北海道消防学校入校 消防職員技術取得研修	・消防学校予防査察科入校 ・第2級特殊無線技士取得 ・第3級特殊無線技士取得	・消防学校警防科入校 ・2級小型船舶操縦士取得 ・第3級特殊無線技士取得	・消防学校幹部科入校 ・消防学校操法指導課程入校 ・酸欠・硫化水素技能講習 ・第3級特殊無線技士取得	・消防学校幹部科入校 ・消防学校救助科入校 ・第3級特殊無線技士取得	・消防学校幹部科入校 ・消防学校火災調査科入校 ・消防学校警防科入校 ・酸欠・硫化水素技能講習	
	・陸上特殊無線技士養成 陸上特殊無線資格取得						
	・船舶操縦士養成 2級小型船舶操縦士資格取得						
	・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者要請 酸欠・硫化水素危険作業主任者資格取得						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,800	260	480	330	360	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	1,800	260	480	330	360		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	171	171	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	171	171					
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		・消防学校予防査察科入校 ・第2級特殊無線技士取得 ・第3級特殊無線技士取得				
			※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	3名	3名	4名	3名	4名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	66%	0%	0%	0%	0%
	全体達成率	10%	10%	10%	10%	10%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名	消防職員教育訓練事業	評価者	管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者	作成者 職氏名	庶務係長	安本 明志美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防職員の資質向上、消防職員組織の活性化								
【抱える課題やニーズは】	より高度な教育を習得する場合、教育日数がかかるため、全職員が習得する事が困難である。	指標(指標計算式/解説)	目標年度及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防行政を的確に遂行し、消防力を必要とする町民等への要求に十分なサービスを提供するため、消防組織力及び職員個々の能力を向上させる必要があり、能力向上専門機関(消防学校等)への研修派遣並びに各種訓練を施す。	① 消防学校教育	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成25年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成25年度	目標値	1人	実績値	1人	達成度	100.0%
目標年度	平成25年度										
目標値	1人										
実績値	1人										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	消防職員の資質向上(専門的知識の習得)	② 陸上特殊無線技士の養成	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成25年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成25年度	目標値	2人	実績値	2人	達成度	100.0%
目標年度	平成25年度										
目標値	2人										
実績値	2人										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	消防学校への派遣	北海道消防学校に11日間入校し、消防同意、査察、違反処理、査察実習など予防査察業務遂行上、必要な専門的知識、技術を習得するとともに、公正な査察の実施や重大な違反対象物に対する是正指導が行えるよう育成した。									
	陸上特殊無線技士講習の受講	電波法で定められている無線設備の操作や監督を行うものに、技能、規範を証明し免許することにより、無線通信の秩序を維持するため、消防職員に対し、無線従事者の育成をした。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、各種訓練・研修を通じ職員の技術向上を目指す上において必要とされる。また、団塊世代の退職により経験豊富な職員が減少するなかで、実践的な教育訓練が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	訓練等の技術向上を目指すべく、消防学校等の実践的な教育訓練を受け習得したことで、達成したものと考ええる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	日々の就業時間において、養われない技術については、ほぼ実践的なものが行われることから、時間短縮につながるものと考ええる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

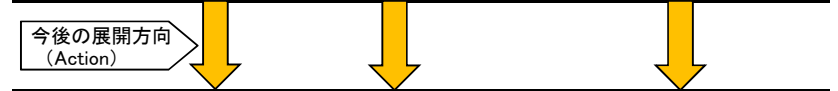
公平	判断の理由	事業は、全町民を対象とした事業により公平と考える。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
団塊世代の退職による経験豊富な職員が減少するなか、現場で活動する消防職員の実践的な教育が行われ、時間短縮での教育の成果を得られたことは評価できる。		



継続/現状維持		
団塊世代の退職が進むなか今後も若年層職員の教育訓練は必要である。また、町民の防災意識の高揚や、町の防災体制の重要性を考えると、今後も継続していく必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020010

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防資機材整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防資機材整備数		#N/A	
事業目標	20資機材	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 消防組織法、消防力の整備指針	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	消防資機材整備	消防ホース更新 防火衣更新 救急資器材保守点検 小型ポンプ更新 油圧救助器具保守点検 空気呼吸器・ポンペ更新 演習用テント一式	防火衣更新 救急資器材保守点検 水難活動用資機材更新 救急資器材更新 救急資器材購入	消防ホース更新 救急資器材保守点検 救急資器材購入 消防資機材購入	救急資器材保守点検	消防ホース更新 救急資器材保守点検	
	事業費(千円)	15,430	6,110	4,100	3,220	410	1,590
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	1,800	1,800				
	その他	0					
一般財源	13,630	4,310	4,100	3,220	410	1,590	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	5,514	5,514	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	1,600	1,600				
その他	0						
一般財源	3,914	3,914					
関 連 事 項	特定財源の名称 H25 過疎対策事業債 (小型ポンプ更新)	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
			消防ホース更新 防火衣更新 救急資器材保守点検 小型ポンプ更新 油圧救助器具保守点検 空気呼吸器・ポンペ更新 演習用テント一式 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	7資機材	5資機材	4資機材	2資機材	2資機材
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	90%	0%	0%	0%	0%
		全体達成率	36%	36%	36%	36%	36%
	事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名 消防資機材整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
	評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
【抱える課題やニーズは】	現在の災害は、年々複雑かつ多様化してきており、これに対応するためには消防資機材の更新及び保守点検や新規購入を実施していく必要がある。	指標(指標計算式/解説)
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	現在消防で保有している消防用資機材は老朽化又は不足しているため、災害現場において活動に支障をきたすことが無いよう、より効果的な資機材の充実を目指した。	① 消防ホース更新 防火衣更新 救急資器材保守点検 小型ポンプ更新 油圧救助器具保守点検 空気呼吸器・ポンベ更新 演習用テント一式
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	消防の任務は町民の生命、身体及び財産を災害や事故から守ることであるため、迅速かつ適切な消防活動ができるようにする。	②
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	選定会議 消防資機材購入他	職員間で資機材の選定会議を実施し、購入予定資機材の実演を行い、使い易さなどを確認する。 消防ホース更新、防火衣更新、救急資器材保守点検、小型ポンプ更新、油圧救助器具保守点検、空気呼吸器・ポンベ更新、演習用テント一式購入
		目標年度 平成25年度 目標値 7 資機材 実績値 7 資機材 達成度 100.0 % 目標年度 平成25年度 目標値 実績値 達成度 #DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	国が定める消防力の整備基準に従い、これに対応する消防資機材を常に確保(整備、点検)しておく必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	高度化する消火、救助及び救急活動に充分対応できる資機材を確保できた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	災害現場での活動が容易になる。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	消防資機材整備事業は、その資機材を使用して町民の生命、身体及び財産を災害や事故から守るための事業であることから公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

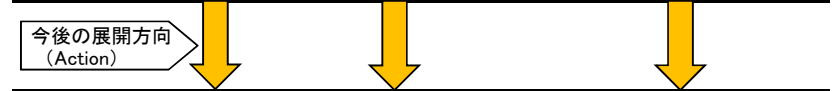
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

25年度 消防ホース更新 100% 防火衣更新 100% 救急資器材保守点検 50% 小型ポンプ更新 100% 油圧救助器具保守点検 100% 空気呼吸器・ポンベ更新 100% 演習用テント一式 100%
26年度 防火衣更新予定 救急資器材保守点検予定 水難活動用資機材更新予定 救急資器材更新予定 救急資器材購入予定
27年度 消防ホース更新予定 救急資器材保守点検予定 救急資器材購入予定 消防資機材購入予定
28年度 救急資器材保守点検予定
29年度 消防ホース更新予定 救急資器材保守点検予定

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 計画通り事業が進んでいる。		



今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
この事業は、本町消防力の水準を高めるため適切に整備していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020020

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	[全体計画内容] ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	救急業務体制整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	救急救命士研修回数		#N/A	
事業目標	10回	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 救急救命士法、救急業務実施基準	
住民協働	無	関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1名) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用(1名)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習
	事業費(千円)	14,750	5,550	5,682	1,301	916
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	14,750	5,550	5,682	1,301	916	1,301
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,522	4,522	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	4,522	4,522				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1名) 気管挿管病院実習	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
	※前年度評価結果		※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	A-継続/現状維持					
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	3研修	2研修	2研修	1研修
年度達成率	81%			0%	0%	0%
第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	31%	31%	31%	31%	31%
事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名	救急業務体制整備事業	評価者	管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者	作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出勤し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 札幌医大研修 気管挿管病院実習	目標年度	平成25年度
			目標値	7人
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	研修をすることにより救急救命士が高度救命資器材を使用できるようになり、重度傷病者の救命率の向上、予後に抱える後遺症の軽減が図られる。	② 救急救命士新規採用数	実績値	7人
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	札幌医大研修	医師の指導のもと研修(救急搬送患者を医師の指示のもと処置を実施)を実施(25年度 6名 6回)		
	気管挿管病院実習	遠軽厚生病院で気管挿管実習を実施(30症例 1名)		
	救急救命士募集	町広報誌、町ホームページ、新聞広告に掲載、養成学校(北海道ハイテクノロジー専門学校・吉田学園医療歯科専門学校)へ依頼し1名採用。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	現有救急救命士の生涯研修及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	現有救急救命士の生涯研修及び実習については達成でき、新規救急救命士1名が採用になる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	現有救急救命士の生涯研修及び実習を受けたことにより、町民に対し高度な救命処置を実施できる資格を取得した。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	新規採用者が1名あり効率的な人員配置ができるようになった。
/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	救急救命士の資質向上を図り、資格者が増員となったことにより、重度傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
救急救命士資格者1名の採用により、今後有効な人員配置ができるようになった。研修については、手技の向上が認められるため今後も必要であると考えます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
継続してこの状態を維持していかなければならないが、新規採用者にとっては、今後の退職者を考慮し広く求人をしていかなければならないと考える。 町民にとって高度な救急活動を行うことによって、安心できる町づくりを目指すには、継続事業であることが適当である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020030

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防施設整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防施設整備数		#N/A	
事業目標	19箇所	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 消防組織法、消防力の整備指針	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	消防施設整備	第3分団屋根改修工事 消防庁倉屋上防水加工工事 消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 サイレン搭補修工事(魚田) 高圧柱上開閉器更新工事	サイレン搭補修工事(幌内) 消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検	消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 サイレン搭補修工事(沢木) 第1分団3部車庫改修工事	消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 消防庁舎床改修工事	消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 発電機用バッテリー取替工事	
	事業費(千円)	16,460	8,350	800	4,310	2,600	400
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	16,460	8,350	800	4,310	2,600	400	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	8,005	8,005	0	0	0	0
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	8,005	8,005					
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】	第3分団屋根改修工事 消防庁倉屋上防水加工工事 消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 サイレン搭補修工事(魚田) 高圧柱上開閉器更新工事 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	6箇所	3箇所	4箇所	3箇所	3箇所
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	96%	0%	0%	0%	0%
		全体達成率	49%	49%	49%	49%	49%
	事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名 消防施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
	評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)																							
【抱える課題やニーズは】	消防施設の老朽化等	<table border="1"> <tr> <th>指標(指標計算式/解説)</th> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">① 第3分団屋根改修工事 消防庁舎屋上防水加工工事 消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 サイレン塔補修工事(魚田) 高圧柱上開閉器更新工事</td> <td>目標年度</td> <td>平成25年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>6箇所</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>6箇所</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td colspan="2">100.0 %</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">②</td> <td>目標年度</td> <td>平成25年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td colspan="2">#DIV/0! %</td> </tr> </table>	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		① 第3分団屋根改修工事 消防庁舎屋上防水加工工事 消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 サイレン塔補修工事(魚田) 高圧柱上開閉器更新工事	目標年度	平成25年度	目標値	6箇所	実績値	6箇所	達成度	100.0 %		②	目標年度	平成25年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0! %	
指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値																								
① 第3分団屋根改修工事 消防庁舎屋上防水加工工事 消防ポンプ保守点検 消防庁舎シャッター保守点検 サイレン塔補修工事(魚田) 高圧柱上開閉器更新工事	目標年度	平成25年度																							
	目標値	6箇所																							
	実績値	6箇所																							
達成度	100.0 %																								
②	目標年度	平成25年度																							
	目標値																								
	実績値																								
達成度	#DIV/0! %																								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防施設を維持管理、整備及び更新することにより、防災拠点としての機能を充実させる。																								
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	消防業務が総合的に強化され充実することにより、町民の安全、安心が保たれる。																								
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	第3分団屋根改修工事・消防庁舎屋上防水加工工事・消防ポンプ保守点検・消防庁舎シャッター保守点検・サイレン塔補修工事(魚田)・高圧柱上開閉器更新工事	適切な積算に基づき、可能な限りコストの削減に努め、工事・点検を行った。																							

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	防災拠点としての消防施設及び機能は正常な状態に維持管理されなければならないため、施設の整備は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	消防施設の機能が適正に維持管理されることにより、消防力が維持され、消防業務を円滑に行える状態が保たれている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	適切な積算に基づき、可能な限りコスト削減に努め、工事・点検を行った。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減 時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民の生命、身体及び財産を守る拠点施設等の整備であり、公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない 受益が一部に偏る その他	

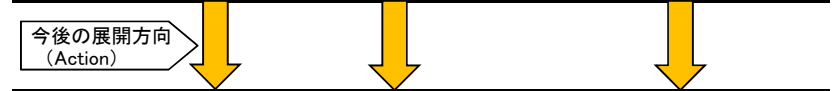
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

25年度 第3分団屋根改修工事 100% 消防庁舎屋上防水加工工事 100% 消防ポンプ保守点検 100% 消防庁舎シャッター保守点検 100% サイレン塔補修工事(魚田) 100% 高圧柱上開閉器更新工事 100%
26年度 サイレン塔補修工事(概内)予定 消防ポンプ保守点検予定 消防庁舎シャッター保守点検予定
27年度 サイレン塔補修工事(概内)予定 消防ポンプ保守点検予定 消防庁舎シャッター保守点検予定 第1分団3部車庫改修工事予定
28年度 消防ポンプ保守点検予定 消防庁舎シャッター保守点検予定 消防庁舎床改修工事予定
29年度 消防ポンプ保守点検予定 消防庁舎シャッター保守点検予定 発電機用バッテリー取替工事予定

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
消防施設整備は計画通り進んでいる。		



継続/現状維持		
今後も消防施設の整備、更新は必要である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020040

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防車両更新事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防車両更新数		#N/A	
事業目標	2車両更新数	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 消防組織法、消防力の整備指針	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	消防車両更新	小型ポンプ積載車更新				水槽付消防ポンプ自動車更新
	事業費(千円)	57,750	6,500	0	0	51,250
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	57,100	5,900			51,200
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	5,600	5,600			
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称 H25 辺地対策事業債 H29 過疎対策事業債	【評価・実績】	(実施内容等) 小型ポンプ積載車更新	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	1車両更新			1車両更新
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	11%	11%	11%	11%
		事業進捗状況	☆☆☆☆			

事業名 消防車両更新事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
	評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	消防車両の老朽化等	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	災害現場活動において支障をきたすことが無いよう、老朽化が進んでいる消防車両を更新する。	① 小型ポンプ積載車更新	目標年度	平成25年度
			目標値	1台
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	複雑多様化する各種災害等に対応するため、消防車両を充実させ、消防力の強化を図る。	②	実績値	1台
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	署内協議	署内で消防車両の仕様及び整備計画の細部について協議を行い決定。		
	小型ポンプ積載車	消防団車両のため、消防団からの要望を踏まえた装備内容の車両とした。		
			目標年度	平成25年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命、身体及び財産を守るために、消防力の整備・充実が必要不可欠である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	消防業務は複雑多様化してきており、それに対応するため車両及び装備の近代化は重要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	災害現場での活動が容易になる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	消防車両更新事業は、町民の生命、身体及び財産を災害や事故から守るための事業であることから公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

25年度 小型ポンプ積載車更新 100%
29年度 水槽付消防ポンプ自動車更新予定

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り進んでいる。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
この事業は、本町消防力の水準を高めるため適切に整備していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020050

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	[全体計画内容] ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	A	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	4 法定自治事務	
事業名	消防救急デジタル無線設備整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	整備数		#N/A	
事業目標	6回	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加		関係例規・法令名	有 電波法	
住民協働	無	関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	消防救急デジタル無線設備整備事業	実施設計調査委託業務(H24繰越) 共通波整備工事(H24繰越) 活動波整備工事 衛星電話機購入 消防救急デジタル無線機械室設置工事 簡易指令台設置工事				
	事業費(千円)	124,317	0	0	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	93,700				
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	116,865	0	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	88,700				
関 連 事 項	特定財源の名称 緊急援助隊設備整備費用補助金 過疎債	【評価・実績】 実施内容等 実施設計調査委託業務(H24繰越) 共通波整備工事(H24繰越) 活動波整備工事 衛星電話機購入 消防救急デジタル無線機械室設置工事 簡易指令台設置工事 ※前年度評価結果 A-終了	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 6整備				
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率 94%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率 94%	94%	94%	94%	94%
		事業進捗状況	☆☆☆☆			

事業名	消防救急デジタル無線設備整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	国の電波法関係基準(総務省訓令)の改正により、平成28年5月31日までに消防救急無線を現行のアナログ方式からデジタル方式に移行しなければならない必要性があること。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	国が進める消防救急無線のデジタル化整備を行うことにより、消防業務の円滑化を図る。	① 実施設計調査委託業務 共通波整備工事 活動波整備工事 衛星電話機購入 消防救急デジタル無線機械室設置工事 簡易指令台設置工事	目標年度	平成25年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	従来のアナログ方式からデジタル化方式にすることにより、無線通話の秘匿性が向上し、又、音声通信からデータ伝送が行われることなど、消防活動に対し質の向上及び強化が図られる。		目標値	6回
			実績値	6回
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成25年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	消防救急デジタル無線施工会議	消防組合でデジタル無線担当を選任し(本部、各支署)定例会議を開催、デジタル無線整備費用低減化に努めた。		
	デジタル無線整備(共通波・活動波)、衛星電話機購入、消防救急デジタル無線機械室設置工事、簡易指令台設置工事	適切な積算に基づき、可能な限りコストの削減に努め整備を行った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	国の電波法関係基準の改正に伴い、アナログ方式の消防救急無線をデジタル方式に移行するため整備を行う。それに伴い無線不感地帯用の衛星携帯電話機の購入、消防救急デジタル無線機械室の設置、無線機能を有する簡易指令台の設置工事がなされた。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	消防救急デジタル無線及び消防救急デジタル無線機械室、衛星携帯電話機、簡易指令台は消防業務、災害等には欠かせないため、消防活動に対し質の向上及び強化が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	消防組合全体での整備となり、国庫補助及び過疎債を充当し適正に対応した。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

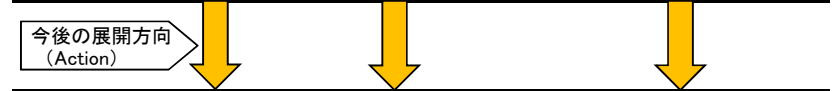
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	消防救急デジタル無線設備整備事業は、それを活用し町民の生命、身体及び財産を守るための事業であることから公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り事業が終了した。		



終了		
-----------	--	--

- ※展開方向の区分
- 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止